資料2

諏訪湖イベントひろば活用イメージ及び機能（案）

1.1. 諏訪湖イベントひろば活用の考え方

諏訪湖イベントひろば（以下、「ひろば」という。）の活用の検討にあたって、「諏訪湖イベントひろばの利用状況」、「上位関連計画」、「事業対象地の周辺状況」を整理する。

≪諏訪湖イベントひろばの利用状況≫

- **諏訪圏工業メッセの会場**として利用されているほか、**諏訪湖祭湖上花火大会の有料自由席、諏訪市農業祭や不要食器ぐるぐる市などの会場**として利用されている。
- **野球やサッカーなどのスポーツ練習の場と**しての利用が増加している。
- **災害時の救援拠点**として活用している。

≪上位関連計画≫

- 「旧東洋バルヴ諏訪工場跡地活用基本構想（H31.3）」において、活用コンセプトとして、**「産業振興・技術開発・観光振興・雇用拡大の活動拠点ゾーン」**が掲げられている。
- また、**新たな技術開発など諏訪市の地域産業を支援する機能**を付加することや、**駐車場を確保**するとともに、**災害時等の活動拠点としての機能**を持たせる等の整備方針が挙げられている。**また、財政負担を最小限に抑える必要があり、民間活力を導入した整備及び運営を目指すこと、集客力のある収益事業を実施することで一定の収益性を確保する手法を導入することが挙げられている。**
- 「諏訪湖創生ビジョン」において、**観光客が湖畔での散策や温泉などを楽しんでいる**ことや**諏訪湖が国際的な湖沼研究の場となり、国内外から多くの研究者や見学者が訪れている**ことが、目指す姿として挙げられている。
- 「まち・ひと・しごと創生総合戦略（H27.10）」において、インバウンド誘致を強化するとともに、**豊富な観光資源を活かすことで、年間を通した国内外の観光客誘致促進と観光消費額の拡大を図る**と挙げられている。
- また、住民や観光客などが交流し楽しむことができるよう、**上諏訪駅周辺から旧東洋バルヴ諏訪工場跡地、隣接する諏訪赤十字病院までを含めた区域について、地域資源を有効活用したまちづくりビジョンを検討**することが挙げられている。
- さらに**クリエイターなどのクリエイティブ人材の誘致促進**について挙げられている。

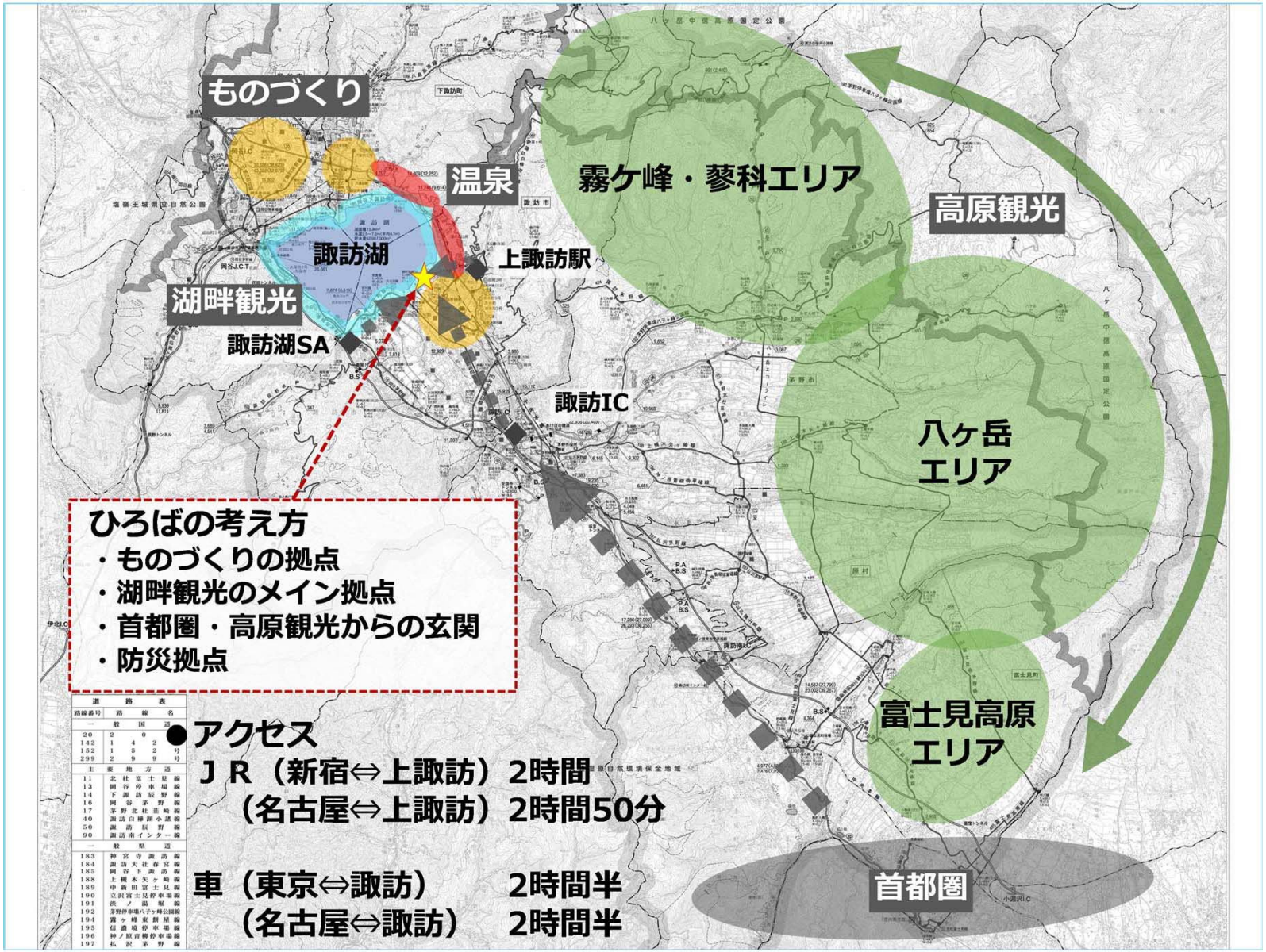
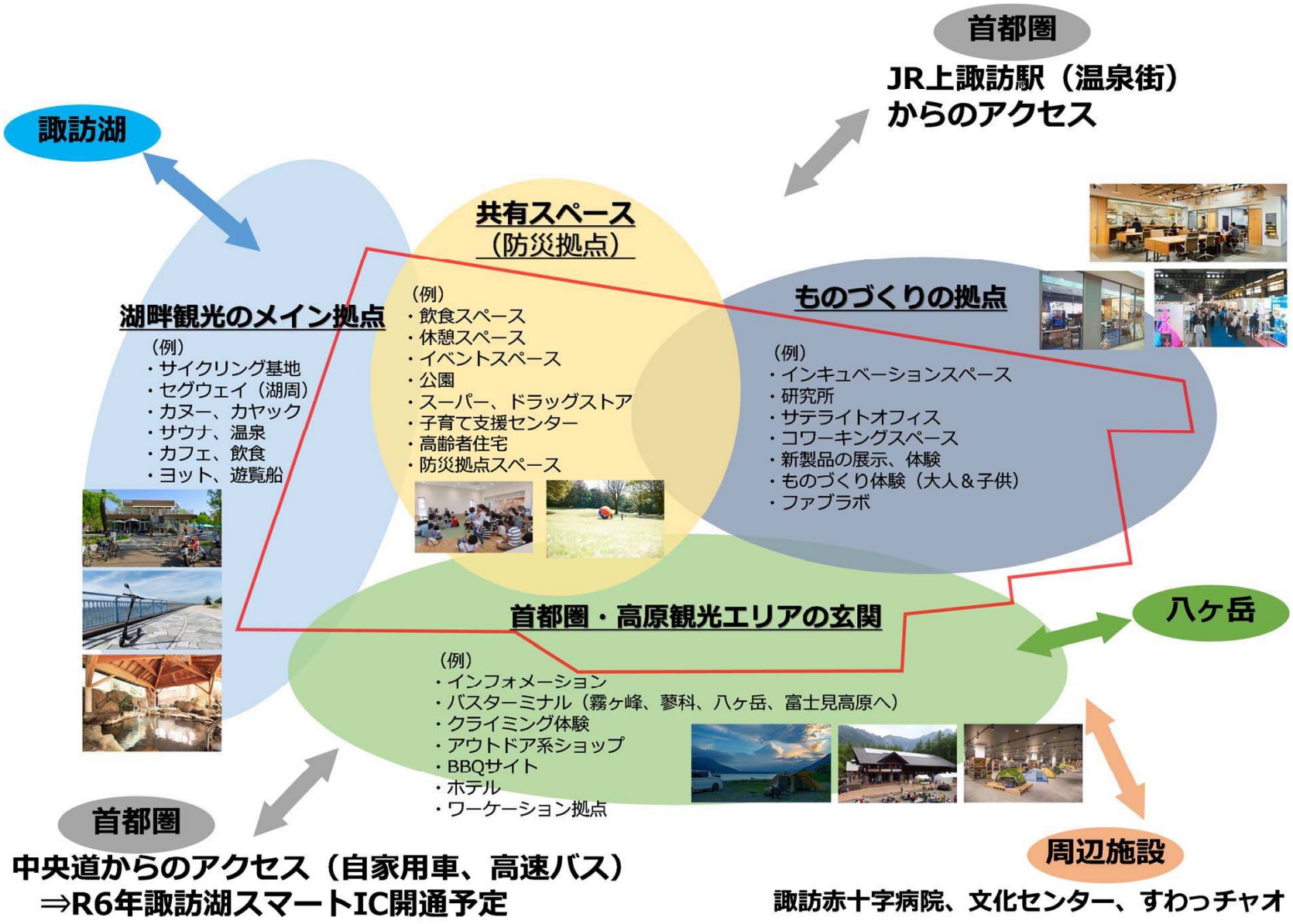
≪事業対象地の周辺状況≫

- 産業別就業者については、昭和60年との対比でみると、平成27年は第1次産業が△52.0%と半減、第2次産業が△32.8%の一方、第3次産業は＋10.4%となっている。
- 観光客数については、7月と8月の2か月間で年間の40.0%を占めており、夏の観光入込客数（花火大会等）が高い値になっており、夏以外の観光客数は低い値となっている。

上記を踏まえた、ひろば活用の考え方（一例）

- ◆ 諏訪地域ならではの産業集積の潜在力を活かし、様々な分野・人が集まり、新たな価値を生み出し、地域産業を支援する拠点を目指す⇒**ものづくりの拠点**
- ◆ 諏訪湖や温泉など、豊富な観光資源を活かし、観光客の誘致を目指す⇒**湖畔観光のメイン拠点**
- ◆ 諏訪地域の産業の魅力や、観光資源の魅力を発信し、国内外からのヒトやモノが集まる拠点を目指す⇒**首都圏・高原観光からの玄関**
- ◆ 災害時の救援拠点を目指す⇒**防災拠点**

1.2. 諏訪湖イベントひろばと諏訪地域の主な資源



1.3. 諏訪湖イベントひろば活用イメージ及び機能（案）